

令和7年2月14日

浜田市議会議長 様

議員名 岡本 正友

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ・みんなの森ぎふメディアコスモス (岐阜県岐阜市司町 40-5)
- ・南箕輪村役場 (長野県上伊那郡南箕輪村 4825 番地 1)
- ・伊那市立伊那小学校 (長野県伊那市山寺 3221)

2. 視察事項

- (1) 賑わいを創出する複合施設の在り方について
(岐阜市立中央図書館・市民活動交流センター・多文化交流プラザ)
- (2) 南箕輪村の移住定住対策及び子育て支援事業について
- (3) 伊那市立伊那小学校第 46 回公開学習研究会について

3. 視察の目的(市政との関連など)

多様な市民サービスを提供する複合施設や移住実績のある自治体および全国的にも評価が高く主体的な学習に取り組む小学校の取組を学ぶことによって常任委員会や個人一般質問での提言の参考とするため

4. 期間(移動日を含む)

令和7年1月30日(木) ～ 令和7年2月1日(土)

5. 経費 47,958円

(経費内訳 旅費 43,587 円、参加費その他 4,371 円)

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

- ①多様な市民サービスを提供するセンター施設の実態を把握し複合施設の在り方について市への提言を探る
- ②若者移住率の高い村の実態を把握し移住定住促進への提言材料とする
- ③長年の主体的な総合学習の成果を把握し浜田における初等教育の在り方の参考とする

7. 視察内容

(詳細は別紙のとおり)



調査研究活動の概要（岐阜・南箕輪・伊那）

◆岐阜市の概要について（令和6年4月現在）

人口：399,492人 世帯数186,907世帯 面積230.60km²

- ・岐阜県の県庁所在地で平成8年4月に中核市となり平成18年には旧柳津町と合併している。
- ・木曾・長良・揖斐川の3大河川の沖積土によってつくられた濃尾平野の北部に位置し、海拔高度60m以下の平地が市域の約60%を占めている。
- ・名古屋市からは約30kmの距離で名古屋駅から快速電車で約20分とアクセスも良好である。
- ・織田信長によって稲葉山城が攻め落とされ、稲葉山は金華山に城下も岐阜と改名され、この地を拠点とし天下に覇をとなえ以後商工の町として発展をしている。
- ・金華山の麓を流れる長良川では古典漁法による鵜飼が有名で岐阜城と共に観光資源となっている。

（Ⅰ）みんなの森 ギふメディアコスモスについて

【概要】

- ① 平成27年7月にオープンし、「**知の拠点**」の役割を担う市立中央図書館、「**絆の拠点**」となる市民活動交流センター、多文化交流プラザ及び「**文化の拠点**」となる展示ギャラリー・オープンテラスなどからなる複合文化施設である。
- ② 市民のいろいろな活動の発表の場となる「スタジオ」を備え、市民活動を積極的に支援する「**市民活動交流センター**」、国際交流の場となる「**多文化交流プラザ**」を開設しており、展示や発表会、講演会やセレモニーなど多様な使い方ができる「みんなのホール」、「みんなのギャラリー」、「つくるスタジオ」、「こどもへや」、「ドキドキテラス」などを設置している。
- ③ 中央図書館も含め岐阜市役所の**市民協働推進部直轄**で運営している。

（令和6年4月1日現在）

	ぎふメディアコスモス事業課	市民活動交流センター	図書館（内司書）	計
正規職員	10	15	19(12)	44
フルタイム	3	1	5(4)	9
パートタイム	2	12	54(54)	68
計	15	28	78(70)	121

④ 建物の特徴

敷地面積 14,725.39 m²、建築面積 7,530.57 m²、延床面積 15,444.23 m²、建物高さ 16.09m

- ・全体に壁を少なくして一体感を生み出しオープンな空間をつくっている。
- ・2階の天井部分は東濃ヒノキで9～21層にレイヤー状に組み上げている。
- ・太陽光・太陽熱を十分に利用すると共に長良川の伏流水を利用した熱源管理で消費エネルギーを同規模建物と比較し1/2に半減させている。
- ・館内に、スターバックスコーヒー及びコンビニのローソンが出店している。



【調査事項】

① 複合文化施設として整備するに至るまでの経緯と評価について

平成 16 年度に岐阜大学医学部附属病院移転、以後、跡地利用の基本構想(H17)前、基本計画(H22)後などの節目に市民意見を募集し、図書館や行政施設等といった施設機能の意見を反映。

●事業費内訳

国補助金	約 34.1 億
県補助金	約 0.3 億
市債(うち合併特例債約 55.4 億)	約 59.7 億
岐阜大学医学部等跡地整備基金	約 6.6 億
元気なぎふ応援基金	約 0.1 億
図書館整備基金	約 12.3 億
一般財源	約 6.4 億
合 計	約 119.5 億

●財源内訳

土地取得費	約 26.7 億
設 計 費	約 3.3 億
建 築 費	約 76.3 億
(内訳) メディアコスモス	約 59.9 億
工事監理	約 1.0 億
広場整備	約 5.2 億
立体駐車場建築	約 9.1 億
暫定地整備	約 1.1 億
図書・備品費等	約 13.2 億
合 計	約 119.5 億

●資質評価型プロポーザル方式で設計者選定

⇒ 伊東富雄建築設計事務所 (益田のグラントアも設計を担当)

●来館者アンケートの状況 (令和 5 年度調査: 回答数 995 件)

- ・メディアコスモスが好き 99.3%(どちらかというと好きも含む)
- ・誇りをもって紹介できる 88.2%(どちらかというとできるも含む)

② センターや図書館など年間維持費用について

施設管理費 (ぎふメディアコスモス事業課)

(単位: 千円)

科目	管理委託	光熱水費・燃料費	その他(消耗品等)	合計
R5 決算額	289,634	45,719	20,647	356,000

※管理委託 (警備業務、施設管理業務、清掃業務、総合案内・施設貸出業務、
駐車場管理業務、広場維持管理業務、ほか各種保守業務)

③ 施設整備方針への市民の反対意見の特徴について

施設整備時の資料が限られており、「市民の反対意見の特徴」を示す情報の回答は困難である。

④ スターバックスコーヒー出店の経緯・背景について

館内カフェレストランスペースへの出店事業者を公募し、参加表明3社から審査委員会の審査を経てスターバックスコーヒージャパンを選定。2016年2月開店。

⑤ みんなの広場カオカオ（メディアコスモスと市役所の間の広場）への出店状況（利用状況）について

キッチンカー等が出店可能なエリアとして広場に10区画を設定

R5年度 稼働率83.0% 年間2904/3500区画（※10区画/日）

（１） 市民活動交流センターについて

【概要】

- ① 市民活動センターは、「絆の拠点」「文化の拠点」として、市民活動を「知る」「楽しむ」「支える」「育てる」「創造する」の5つの基本的な機能を有し、各種相談、団体間の紹介と連携づくり、人材育成、調査研究などを進めており、市民活動支援ブースを設置し、共同事務所スペース、団体のオフィス機能、国際交流の促進などを担っている。
- ② 具体的には、保健・医療・福祉、社会教育、まちづくり、観光の振興、農山漁村・中山間地域の振興、学術・文化・芸術・スポーツの振興、環境の保全、災害救援活動、地域安全活動、人権の擁護・平和の推進、国際協力、男女共同参画社会、子どもの健全育成、情報化社会、経済活動、職業能力開発・雇用機会拡充、消費者保護、団体の運営と活動、などの分野で市民活動団体を育成支援している。
- ③ 市民活動支援事業として、地域社会の課題解決を目的として市民自らが企画・実施する事業を応援しており、平成6年度は「ひきこもる方々とそのご家族の支援・居場所づくり」「夜の子どもの居場所「ごろごろ」」など25団体が助成を受け事業活動を実施している。

【調査事項】

① 利用団体数（利用者数）のコロナ前と後の年間推移について

令和元年度 272 団体、令和2年度 260 団体、令和3年度 260 団体

令和4年度 289 団体、令和5年度 318 団体、令和6年度（12月末現在）321 団体

② 市民の自治的活動や主体的な活動として発展した活動の事例について

メディアコスモス開館前から、メディコスを盛り上げようと精力的に活動していた有志たちが、開館後に「市民の立場で考え、語り合い、実践をする」といった考え方を念頭に、全館イベントへの協力や情報交換・発信、館内ツアーなど様々な企画を考え取り組む団体として、メディコスクラブという任意団体を設立した。

このメディコスクラブはメディアコスモスの理念を生かし、メディアコスモスの使命である、「市民活動の支援と交流、まちのにぎわいをもって活気ある地域社会」の実現に向け、市民の立場で考え、語り合い、実践する有志の会です。現在は、毎月第2木曜日にメディコスクラブ情報交換会を開催し、団体の活動報告やイベントの魅力アップに向けた方策など、団体同士の積極的な交流を図っている。

③「つくるスタジオ」などの各スタジオの利用状況と市民からの評価について

利用状況

年度	利用状況累計	内印刷機利用	内打ち合わせ等
令和4年度	1900 件	(1511 件)	(389 件)
令和5年度	1874 件	(1580 件)	(294 件)
令和6年度12月末	1405 件	(1172 件)	(233 件)

市民からの評価は、つくるスタジオの利用で特に多いのが、印刷機の会議・打ち合わせでの利用。市民活動団体からは「低額で印刷機が利用できるため大変助かっている」「団体メンバーとの打ち合わせ場所に困ることがなくなった」など高い評価を得ている。

(2) 多文化交流プラザについて

【概要】

- ① 岐阜市の外国人住民数は1万人を超えその対応が必要であり、外国人の生活支援、就労相談と支援、就学支援、日本語学習講座、行政相談などにあたっている。
- ② 国際交流協会など団体の支援、多文化共生社会づくり、外国語講座、国際化への啓発と理解などを進めるため各種事業を行っている。

【調査事項】

① 外国人生活相談窓口を利用する外国人の国別状況について

令和6年4月1日から令和7年1月末まで、相談件数は、第1位フィリピン

フィリピン国籍の外国人市民は2,000人以上と多く、比例して相談件数が最も多い。コロナウイルスの感染状況の収束に伴い、家族で来日する外国人が増え、子どもの小中学校への編入、日本語教育についての相談が増えている。相談の大半は保険料、税金の支払いなど行政手続き関係が多い傾向にある。フィリピン国籍の特徴として、「永住者」「日本人の配偶者等」など、今後とも日本に住み続ける在留資格の方が多いたことが挙げられる。

第2位ブラジル、国籍別の外国人市民数は400名程度で、フィリピン国籍に比べると少ないが、相談件数は第2位にあたる。非正規雇用で働く人が、不安定な収入や雇用契約が終了するなどを理由に日常生活に困るケースがみられます。特にコロナ禍では顕著にみられる。税金や保険料支払いの分割・猶予・免除の申請、生活保護の申請など経済面に関する相談が多い傾向にある。

そのほか様々な国籍の相談があり、英語、日本語などで対応しており、全体を通して、行政手続きの通訳、日本語教育に関する相談が多い。

② 生活相談内容における、庁内や関係機関などとの支援等の連携体制について

多文化交流プラザに設置している外国人相談窓口は、岐阜市の委託事業として実施しているため、庁内とは密に連携を取ることができている。行政手続きに関する相談が最も多く、外国語相談員が相談窓口でヒアリング後、必要であれば市役所窓口まで同行し、市役所職員の説明を通訳している。外国人相談者が市役所窓口に来た場合、市役所職員が通訳を必要と判断した場合は、相談窓口に対して相談員の派遣要請があり、通訳として相談員を派遣する。

③ 活動の中で、市民の多文化や国際化への理解が深化した具体的事例について

日本人と外国人の交流イベントを毎月実施しており、イベント終了後は、更に親交を深めていく様子がみられる。外国人や有識者を講師に、外国文化を紹介する講座を毎年実施している。近年ではドイツやフランス、スペインなど旅行先として人気がある国や、岐阜市に多く在住する外国人市民の国であるインドネシアや韓国の文化を紹介している。参加者からは、「訪れてみたくなった」「市内の外国の方と話すキッカケができた」などの感想あり。

(3) 岐阜市立中央図書館について

【概要】

- ① 市立中央図書館は、最大所蔵可能数90万冊、座席数910席、施設最大の特徴のひとつとして木製格子屋根により空間が彩られ、壁がない広い館内は多くの市民が集える、学べる空間となっている。
- ② 図書館のポイントを、中高生がつながる、子どもがつながる、まちがつながる、みんながつながる、として文化の拠点として位置づけ、滞在型図書館をめざしている。

【調査事項】

① 図書館設計のコンセプトについて

「図書館は本で人とまちをつなぐ屋根の付いた公園です」をコンセプトとし、滞在型図書館「ここにいることが気持ちいい、ずっとここにいたくなる、何度でも来てみたくなる」をめざし、「子どもの声は未来の声である」を大切にしている。

② 所蔵数および利用者数について（令和5年度）

所蔵数582,300冊（視聴覚資料を含む）利用者数880,782人

③ 本の色あせを防止するために留意している事項について

ブラインドを使用し、色あせを防止している。

④ 遮光カーテンや遮光ブラインドに使用している素材について

素材：紙

【所感】

「みんなの森 ぎふメディアコスモス」は、単なる図書館や公共施設でなく、市民が主体的に活動し交流できる場所として設計されている点が印象的であった。特に、建築の工夫(天井のグローブ構造による解放感と採光の工夫)や、エリアごとに異なる利用目的を持たせるゾーニングは、市民の多様なニーズに応える設計となっている。

特に以下の点が注目される。

(図書館)

・開放的な空間設計：

2階に位置する図書館は書架の高さを低くし非画一的な配置がなされ見通しが良く、解放感がある。

・子育て世代への配慮：

幼児連れの親子も安心して利用できる環境が整備されており、子供の声を受容する姿勢がみられた。

- ・書籍保護の工夫：

大きな窓からの採光による書籍の劣化を防ぐため、遮光ブラインドが設置されている。

- ・利便性の向上：

貸出カウンターが複数設けられ、利用者がスムーズに本を借りることが出来る仕組みが整備されている。

(市民交流センター)

- ・多様な憩いの場：

1階の至る所に異なる種類のベンチが配置され、市民の憩いの場として機能している。

- ・多文化共生の推進：

外国人を含む市民生活に関連する担当課が設けられ、相談や支援が受けやすい。

- ・活動支援の充実：

市民が利用できる会議室やパソコン、印刷機など、ボランティア活動を支援する設備とスペースがある。

- ・イベントスペースの提供：

年間を通して休館日が少なく、市民が利用しやすい体制が整っている。

(多文化交流プラザ)

- ・相談・支援体制の充実：

外国人の相談スペースと市民協働の活動支援スペースが整備され、多文化共生の拠点として機能している。

- ・眺望の良い休憩スペース：

施設周辺の見渡せる休憩スペースがあり、利用者のリラックス空間を活用できる。

(市庁舎とメディアコスモスとの間の広場)

- ・多目的屋外空間：

キッチンカーの配置や、家族・団体での会食(バーベキューなど)、さらには大規模な野外イベントの開催が可能な広場が利用できる。

これらの取組は、公共施設の活用や市民協働、多文化共生の視点から見ると浜田市がこれから検討する公共施設の複合化における、インバウンドを視野に置きつつ、市民参加型の活動拠点として位置付ける事は、施設周辺地域の活性化の重要な要素となると考える。

◆南箕輪村の概要について（令和7年2月1日現在）

人口：16,030人 世帯数 6,784世帯 面積 40.99km²

- ・西に中央アルプス連峰の駒ヶ岳、東に南アルプス連峰の仙丈ヶ岳を望む伊那谷の一番広い平地の中心に位置する。山岳地域には誰も住んでいない飛地が約21.0km²があり、村民は残り半分の約20.0km²に居住している。
- ・人口は2,333人で明治8年に村が誕生して以来、ほぼ着実に人口が増加して村政150周年を迎える令和7年の人口は1万6千人で移住者の割合は73.3%である。
- ・産業別就業者数の推移は第1次産業が低下傾向であるが、第2次・第3次産業は増加傾向で医療・介護分野での増加が大きいとのことである。
- ・長野県南部に位置し村内には中央自動車道伊那ICがあり新宿から約3時間、名古屋からも約2時間と利便性がよい。
- ・村内には信州大学農学部や南信工科短大もあり保・小・中・高・短大・大学の教育機関が整っている。

（Ⅱ）南箕輪村 移住定住対策・子育て支援について

【調査事項】

◆人口推移 S51年8,000人 ➡ S60年10,000人 ➡ H7年12,000人 ➡ R4年15,000人
➡ R7年1/1-16,051人（転入者は近隣市町村からが多い）

◆人口動態の推移

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
転入者	696	758	898	835	694
転出者	607	675	711	721	725
出生数	162	134	143	141	139
死亡数	145	135	157	153	163
増減数	+106	+82	+173	+102	-55

年代	人数	内男性	内女性
55～59歳	986	503	483
50～54歳	1096	620	697
45～49歳	1212	613	582
40～44歳	1096	579	517

◆年齢別人口

40代～50代層が多い

高齢化率は23.8%！

県下で最も低く若い村

第3次産業	4619人〈商業サービス業〉
第2次産業	3145人〈製造業工業建設業〉
第1次産業	465人〈農業林業〉

◆産業別就業人口分布

○ 8, 2 2 9 人

◆人口推計

- ・長野県全体で人口減少するが、南箕輪村だけが 2020 年から 2050 年の人口増加予測

●南箕輪村における人口増加の要因 ～移住者も暮らしやすい環境づくり～

(1) 子育て支援施策

①保育料の引下げ

H17	H18	H19	H20	H24	H26	H27	H30
5.0%	3.8%	4.2%	3.5%	2.07%	長時間保育料引き下げ	8.4%	1.82%

- ・R 元年 10 月国施策保育料無償

②福祉医療費給付の充実

- ・対象年齢を段階的に引き上げ H17 年度未就学 ⇒ H25 度高校 3 年生まで
- ・給付方式と自己負担額 H24 度償還払い自己負担 300 円 ⇒ R4 年度現物給付自己負担 0

③小中学校の保育園児数の推移 H17 年 539 人 ➡ R1 年 767 人 (228 人増加) ➡ R6 年 697 人 (158 人増加)

④児童・生徒の推移 H7 年度 1336 人 ⇒ R6 年度 1544 人 (204 人増加)

⑤子育て関連施設

- ・村内に 6 つの保育園 (村営) と療養施設のたけのこ園
- ・すくすくハウス (H17 年開所)、子供館 (H29 年開館)
- ・保育園から小・中・高 (上伊那農高) ・短・大・大学院 (信州大学農学部) まで

⑥その他の子育て支援策

1, 子どもの窓口一元化	9, ママのための湯ったりタイム事業 in 大芝の湯
2, 不妊・不育症治療費助成	10, 産後育児ヘルパー派遣事業
3, たけのこ園 (発達支援)	11, 保育士 (会計年度任用職員) の処遇改善
4, 使用済みおむつの保育園廃棄	12, 女性再就職トータルサポートセンター
5, ファミリーサポートセンター	13, 保育園・小中学校共通の連絡システム
6, 病児病後児保育事業	14, 小学校体育専科教員の配置 (R5 村職員 2 名採用)
7, こども館	15, 就学資金助成
8, 放課後児童クラブ	

(2) 高齢者・障がい者への支援施策 福祉の窓口一元化

＜高齢・障がい者対象＞	＜高齢者対象＞	＜障がい者対象＞
・福祉移送サービス ・福祉タクシー券	・介護支援 ・福祉医療費 ・敬老祝金 ・補聴器購入費用助成	・家賃補助 ・自立生活体験 ・生活サポート

(3) SNSの情報拡散 「子どもを育てるなら南箕輪村が良いらしいよ」と



【所感】

浜田市においても子育て支援や高齢者・障がい者支援の施策を実施しているが、南箕輪村との違いはどこにあるのか疑問を抱きながら説明を受けた。その結果、南箕輪村では「いち早く」「広範囲にわたる」「住民目線の利便性向上」という3つの視点で施策がすすめられている事が分かった。

まず、子育て支援策では、保育料の引下げや福祉医療費給付の充実に加え、発達障害児への支援、保育士(会計年度任用職員)の処遇改善、女性再就職トータルサポートセンターの設置など、14の多角的な施策を実施しており、その充実は圧巻であった。

次に高齢者・障がい者支援においても、福祉輸送サービスや福祉タクシー券、介護支援、福祉医療費助成にとどまらず、補聴器購入費用助成、障がい者家賃補助、自立生活体験の提供など多層的な支援が展開されている。さらに、福祉窓口を一元化し、個々のケースに応じた重層的な対応を可能にしている点も注目すべき点である。

これらの取組は、「南箕輪村は子育てしやすい」「支援が充実している」というクチコミが広がり、都市部を含め周辺地域へと波及している。この影響力は単なる制度設計だけでなく、住民に伝わりやすい形で、施策を実施し、発信している事に寄るものであると考えられる。

浜田市においても、既存の施策をより効果的に活用し、さらに広報や住民ニーズに応じた制度の見直しを図ることが求められている。少子高齢化の進行は待ったなしの課題であり、官民・地域が一体となって迅速に対応すべきである。

◆伊那市の概要について（令和6年4月現在）

人口：64,901人 世帯数 28,726世帯 面積 667.93km²

- ・長野県南部に位置し平成18年3月31日伊那市・高遠町・長谷村が合併している。
- ・東に南アルプス、西に中央アルプスという二つのアルプスに抱かれ、その間を流れる天竜川や三峰川沿いには平地が広がり河岸段丘に街が形成されている。
- ・電気、機械などの高度な加工技術産業や食品などの健康長寿関連産業が発展し、ものづくり産業の拠点となり、三峰川水系の水を生かした米作り、野菜、果樹、花卉などの農業が盛んである。
- ・伊那地区の「やきもち踊り」や高遠地区の「高遠ばやし」など、特色ある伝統文化が地区の住民により継承されている。また、かつての高遠藩の藩校「進徳館」に象徴される教育的風土を有する土地柄である。
- ・ユネスコエコパーク・日本ジオパークのほか、高遠城址公園の桜などの観光資源があり、スキー場や農業公園、温泉入浴施設なども整備されている。
- ・市内には小学校が15校、中学校が6校、特別支援学校が1校ある。

◆伊那市立伊那小学校の概要について（令和6年4月現在）

明治5年 第二十六小校として開校

教育の目標	眞事 眞言 誠
児童の目標	1. こつこつ勉強する 2. 友がきをつくる 3. 自分を大切にする
学校経営の重点	・学校は子どもたちにとってこころゆく生活の場、詩境でなければならない ・総合学習・総合活動の充実 ・みまよせ集会、みまよせ児童集会の充実 ・清掃無言に打ち込む
教職員研修の重点	・学年会の充実（総合の研究推進、学習指導案の作成） ・公開学習指導研究会や学年研究会による授業公開 ・日々の学年・学級だよりの発行 ・唐木順三先生「朴の木」の読み合わせ
学校研究テーマ	内から育つ
特色ある活動	総合学習 1・2年 －総合学習の題材は「自然」「社会」「言語」「数」「表現」などに求め、できるだけこの全体にゆきわたるようにする。 －動物飼育・栽培活動・遊び・生活・年中行事などの中からの題材選定を大事にする 総合活動 3～6年 －総合活動は、教科などの学習の基盤になるという側面と教科などの学習で得たものをそこで実地に生かし、統合するという側面をもちながら、一体となって進めている

児 童 数 約600名

学級編成 1学年3学級で18学級＋特別支援学級9学級 合計27学級

1年：忠組、孝組、文組	2年：山組、川組、森組	3年：春組、夏組、秋組
4年：謹組、直組、敬組	5年：剛組、毅組、正組	6年：智組、仁組、勇組

- ・クラス替えは3年から4年になる時の1回のみ
- ・クラス名と共に担任も持ち上がり3年間はクラス固定

特別支援学級：愛組、善組、訓組、陽組、朋組、温組、育組、信組、美組

職員数

校長：1	教頭：1	教務主任：1	教員：30
専科教員：3	保健：2	司書：1	A L T：1
支援員：5	事務：2	校務技師：2	給食技師：6
相談員：1	警備員：1	その他：6	合計：63名

特 色 ・昭和31年より通知票を廃止して保護者面談に

- ・時報チャイムを鳴らさない
- ・学級便りを頻繁に配布

（Ⅲ）伊那市立伊那小学校 第46回公開学習指導研究会について

〔調査事項〕

長野県伊那市立伊那小学校のトップページには「内から育つ。学校は子どもたちにとってこころゆく生活の場、詩境でなければならない。」とある。「子どもは自ら求め、自ら決め出し、自ら動き出す力をもっている存在である」という子ども観に立ち、子どもたちの求めや願いを大切にできる総合学習・総合活動をカリキュラムの中核に据え、子どもの活動の姿や言葉、しぐさ、表情等から子どもの内に迫るための研鑽を積まれている。長年の主体的な総合学習の成果を把握し、浜田における初等教育の在り方の参考とするため、第46回公開学習指導研究会へ参加した。

（1）自由参観授業 8:25～9:10(45分)

学級	教科等	題材名	授業者
1年忠組	総合学習	いっしょにすごすのたのしいな	原 宏典
		～くうちゃんゆきちゃんと出かけよう～	
1年孝組	総合学習	しろとくろといっしょ～しろとくろとおさんぽ～	高橋龍太
2年森組	総合学習	うこっけい大家族と越える2年目の冬	小林正樹
		～うこっけい広場ですごそう～	
3年夏組	総合活動	めざせ!わたしのジェラート	小池大志
		～これがわたしのジェラートってことなのかな～	
3年秋組	総合活動	織り込もう蚕たちと私たちの思いを～紡いだ糸を織ろう～	藤澤志穂
4年直組	総合活動	お弁当をつくってちょっくら出かけよう	川上達磨
		～食べてわたしのおにぎり～	
5年正組	算 数	単位量あたりの大きさ～どの部屋がこんでいるかな～	荒谷眞治
6年勇組	総合活動	勇組レストランを開店しよう	加藤勇樹
		～わたしたちの「挑戦」を味わってもらおう～	

(2) 授業者との懇談 9:15～9:45(30分)

(3) 開会行事・研究発表 10:00～10:30(30分)

○登内淳校長挨拶要旨

北海道から熊本まで全国から 750 名を超える参加があった。公立の学校であるため今年度（令和 6 年度）定期異動で職員の 1 / 3 が入替った。1 年目の職員を支えながら本校で大事にしたい方向は揃え力を合わせてきている。ここ数年は伊那小学校が多くの方に知られるようになり移住による転入児童が増えている。前の学校では不登校、学校に適応できない等の課題を抱える子どもも少なくなく対応に苦慮している。教員不足の苦しい状況も続いているが、子どもを中心に大事にする教育に意欲を注いでいる。

○「内から育つ ― 対象とかかわり続けながら、学びを深めていくこども ―」研究主任 荒谷眞治

本校では「子どもは自ら求め、自ら決め出し、自ら動き出す力をもった存在である」という子ども観に立ち、子どもの求めや願いに立った学習を展開することで、子どもが元来もっている生きる力を更に育むことが出来ると考えている。総合学習、総合活動を教育課程の中核に位置付け、子どもと教師が共に創っていく授業の実現に向けて研究実践を積み重ねてきている。研究テーマである「内から育つ」は今年で 34 年目を迎えた。子どもの言葉やしぐさ、表情といった「子どもの事実から学ぶ」という事例研究を通して、内からの育ちを願い、子どもの内に学んできた。昨年度は、子どもの思いがあふれ出ていく姿に着目し、いくつもある子どもの思いがあふれ出た姿をできる限り全てをつなぎ、紡いでいこうとしながら、子どもの内に追っていった。そのなかで、子どもたちが対象に働きかけたり、対象からの働き返しを感じたりしていきながら、自らの学びを深めていく子どもの内を考え合った。

本年度の事例で見えてきたことは、子どもは向き合っている対象が私にとっての対象となって自らかかわり続けていくことで学びを深めていくことがある。対象が秘める魅力、本物のモノ、人へのあこがれ、私と同じ対象にかかわる友の存在など様々な背景によって、子どもは向き合っている対象が「私にとっての対象」となって自らかかわり続けていくのではないか。子どもと共に歩む教師のかかわりもまた子供が対象とかかわり続けていくことや学びを深めていくことに大きく関係しているのではないだろうか。

(4) 共同参観授業 10:45～11:30(45分)

学級	教科等	題材名
1 年文組	総合学習	「みんなとぼうけんへ出かけよう(冬)～いつもの林へ行こう～」
2 年山組	総合学習	「ミルクとココアといっしょ ～冬となかよし～」
3 年春組	総合活動	「クリスターもまわりのみんなもわたしも ～クリの人慣れ&PR大作戦！～
4 年謹組	総合活動	「響かせたいわたしの音～わたしのカホンで演奏したい～」
5 年毅組	総合活動	「こんな色を出したいな～冬の植物と出会う色～」
6 年智組	総合活動	「冬の林でみんなと楽しもう～冬の林で作る“わたしのピザ”～」



【所感】

伊那市立伊那小学校で開催された公開学習指導研究会に全国から 800 人近い関係者の参加があり、周辺の山野を借りるなど地域と連携した教育や子ども主体の学びの場となっていた。

- ・ **動物飼育を通じた学び：**

1 年生のクラスでは、ヤギとヒツジの飼育(餌やり、掃除、散歩)を通じて、子供の主体的に学ぶ姿勢がみられる。

- ・ **教師の柔軟な指導：**

2 人体制の教師は子供たちに目配せしつつ、囲い塀にまたがる子供を叱ることなく自由な環境を提供しており、子供たちは楽しそうに活動している。

- ・ **継続的な指導体制：**

1 年生から 3 年生までの 3 年間、同じ担任が子供たちを指導する体制がとられており、継続的な成長支援が行われている。

- ・ **評価方法の工夫：**

自由な活動の中での評価は難しいため、後の会話の中で子供の気づきや思いを把握し、成長を評価する。

- ・ **総合学習の取り組み：**

ヤギや羊を 3 年間の飼育をつうじて、出産などの生命の営みを学ぶ総合学習の仕組みが構築されている。

- ・ **長年の研究会の継続：**

第 46 回に至る公開学習指導研究会の長期にわたる取組は、教育現場の継続的な努力都工夫の賜物であり、高く評価できる。

- ・ **学校評価と移住の促進：**

伊奈小学校の教育方針や取り組みが評価され、市外・県外からの転校生が増加している状況に家族での移住につながったケースもみられる。これは、学校の魅力が地域の活性化や人口増加にも寄与している好例。

これらの取組は、地域と連携した教育や子ども主体の学びの創出において、他に自治体や教育機関にとって参考になると考える。とくに、学校の特色ある教育が地域の魅力となり、移住者の増加につながる点は、地域活性化の 1 つのモデルとして評価できる。